

令和5年度 学校評価報告

草加市立栄小学校

(令和6年2月6日作成)

1 学校教育目標	
よく考える子〔知〕 思いやりのある子〔徳・情〕 ねばり強い子〔意〕 体をきたえる子〔体〕 —児童一人一人を大切に、さわやかで活気あふれ、それぞれの笑顔がかがやく栄小学校— 【キャッチフレーズ】 「さわやか かつき えがお の さかえ」	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
1 学級・学年経営の充実 2 学習指導の充実 3 豊かな心を育む指導の充実 4 健康な体づくりの推進 5 生徒指導の充実 6 開かれた学校づくりの推進 7 特別支援教育の推進	成果 ○草加市の基本方針を踏まえ、学校教育目標の実現を目指し、全教職員が「凡事徹底」「率先垂範」「協働・協力」を合言葉に教育活動の充実に努め、児童が全体的に落ち着いて、明るく元気に学校生活を送ることができている。 課題 ●教職員一人ひとりの強みを生かし、それぞれの力が最大限に発揮されるようバランスのとれた校内組織を編成し、効率よく機能させることにより、学校のチーム力のさらなる向上に努める。働き方改革の視点からも教職員が働きやすい組織づくりにも気をつけていく。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校経営目標や方針について共通理解を図り、教職員が協働・協力して学校教育目標の実現を目指す学校づくりを推進した。 ○適正な予算管理・執行ができた。 ○職員会議の効率化に向けた組織的な運営が行われた。 ○企画委員会から職員会議への流れがスムーズで、全教職員で共通理解の下、教育活動を進めることができた。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学年及びブロックで研究を深めて授業実践をすることで、研究の視点を意識し、より授業力向上につなげることができた。 ○学年で教材研究をすることで、単元を通した授業改善を行うことができ、授業力を向上させることができた。 ●研究組織として、専門部研修をさらに推進し、多面的に研究を深めていく必要がある。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察や校内の感染防止対策を工夫し、菌磨き指導も実践することで、安全管理を徹底することができ、児童が安心して学校生活を送ることができた。 ○定期的な防犯ブザーの点検、声出し訓練の実施、安全点検、計画的な保健指導、避難訓練、不審者対応訓練を実施できた。 ●各種マニュアルのさらなる改善を行い、教職員への周知と活用を徹底する。(特に地震と避難所開設の対応)
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○倫理確立委員会を通じ、個人情報の管理、情報漏洩の防止などへの意識を高めることができた。 ○施設課と連携し、日々の安全点検や教職員からの声をもとに、施設設備の適正な管理が図れた。 ○開放団体・施設使用団体と連携し、施設の有効活用に努めた。 ●タブレットの活用が増え、持ち帰り仕事としての活用もあるため、適切に管理していく。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校だより」やHP、「すぐる」等を通じて、教育活動等を保護者・地域へ発信し、家庭・地域との共通理解が深まるよう努めた。 ○授業参観・学校公開、運動会、栄小まつり、避難所防災訓練等を計画的に実施することができた。 ○年4回学校運営協議会を開催し、学校運営方針への理解、課題等の協議を行い、解決することができた。 ●幼稚園や保育園との交流や平成塾との交流についても、調整し、計画的に実施することができた。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校区で幼保小中を一貫した教育について、来年度の研究発表に向けて、研究主題や組織編成の見直しを行い、具体的取組を共有し、教育活動の充実を図った。 ○標準カリキュラムを確認しながら、指導内容について、幼保や中学校とのつながりを意識して授業実践することができた。 ○栄中学校区で共通して、交流行事を活発に行い、幼児児童生徒間の交流を深めることができた。

草加市立栄小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教育計画通り学習を工夫し、授業時数を確保することができた。 ○日課表の工夫により、教職員の教材研究等の時間を確保し、負担軽減を図ることができた。 ○教育目標の実現を目指す具体的取組について、学校全体で共通理解を図り、協働して実践した。 ●教育目標の「ねばり強い子」「体をきたえる子」の具現化に向けた取組の一層の推進を図る。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「栄小スタンダード」を再確認し、主体的・対話的で深い学びの視点を大切にした授業改善を図り、学力向上につながった。 ○学年会で教材研究を行うことで、学年での足並みをそろえた指導を行うことができた。 ○教科担任制を実施することで、各教科について研究を深めることができ、わかる授業を確立できた。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業研究を計画的に行い、多面的・多角的な話し合いの工夫等を実践することができた。 ○道徳の授業を行う際に、各教科との関連を考慮して実践することができ、道徳的実践力を育成できた。 ○学校公開による授業実践や通知表の評価等により、家庭・地域との連携をおこなうことができた。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度までの研修が継承され、授業改善が図られ、外国語・外国語活動における教員の指導力向上に繋げることができた。(特にスモールトークにおいて) ○毎週木曜日をイングリッシュデーとすることで、放送やSEタイムを効果的に実施し、外国語に親しみ、意欲的に活動する児童の育成が図られた。 ○A L Tとも連携して効果的な授業実践ができた。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○縦割り活動を再開することで、異学年の児童同士が積極的に交流することができ、豊かな心を育むことができた。 ○児童会活動において、計画的に実施することができた。 ●縦割り活動をより活発にするために、回数や内容を工夫していきたい。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットを積極的に活用することにより、学習活動を充実させることができた。 ○幼保や平成塾との交流を計画的に行うことができ、体験活動を充実させることができた。 ●社会に開かれた教育課程の観点から、栄小にとってさらにねらいを達成できる計画にしていきたい。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「報連相」の徹底による情報共有により、SSWやさわやか相談員とも連携し、組織的な対応につなげることができ、迅速な対応ができた。 ○教室環境チェックやハートの日の取組、生徒指導委員会での情報提供等、積極的な生徒指導ができた。 ●いじめや不登校の対応など、担任主体になることがあったので、より組織的な対応ができるようにしていきたい。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートの活用について、栄中学校区で共通理解を図り、具体的取組を共有して進めることができた。 ○キャリア教育の各教科・領域における位置づけを確認し、家庭とも連携して、児童に育成すべき資質・能力を高めることができた。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者と連携し、児童一人ひとりの教育ニーズに応じた個別の指導計画・教育支援計画に基づき、指導方法を工夫しながら教育の充実に努めた。 ○コーディネーターを中心に研修を行い、教職員の共通理解、指導方法の工夫と改善を行った。 ●通常学級に在籍する教育的支援を要する児童への支援の方法と校内支援体制の充実を図る。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「この本読もう、栄っ子」等、読書活動の充実を図り、進んで読書する児童の増加につながった。 ○司書教諭、学校司書、非常勤職員が連携して図書紹介や掲示、ブックトラックの入替を行い、魅力ある図書館づくりを推進した。 ●本をよく読む児童と全く読まない児童の二極化が見られることが課題である。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 I C T機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科において、タブレット端末を積極的に活用しながら効果的な授業を行うことができた。 ○情報モラル教育について、年間指導計画に合わせて、確実に児童に指導することができた。 ●タブレットの活用やプログラミング教育等、教職員一人ひとりのI C T能力を高めていく必要がある。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の人権感覚を高めるため、全校集会、学年集会、学級指導等、様々な場面で繰り返し指導を行い、自他ともに大切にし、互いに認め合える児童の育成に努めた。 ●各教科と関連させた全体計画の工夫改善を行い、学校全体で人権感覚の一層の育成を図る。

	評価項目	評価の観点	評	成果と課題 ○成果 ●課題
特色ある学校づくり	①特色ある学校づくり	・地域の人材活用 ・体験活動の推進	A	○平成塾の方との連携を昨年度以上に進めることができた。読み聞かせや書きぞめ、茶の湯において活用でき、児童にとって、有意義な活動となった。本校にとって、平成塾との連携は大切であり、今後も連絡調整して、交流を進めていきたい。 ○近代美術館の方を講師に招聘して出前授業を実施したことで、児童に美術への興味・関心を高めることができた。
	②学力、体力の向上	・栄っ子の基礎基本 ・学力向上のための指導法の工夫 ・体育の授業の充実	B	○来年度の研究発表に向けて栄小スタンダードを見直し、全教職員で共通理解を図ることができた。スタンダードを踏まえた授業実践や県学力・学習状況調査の結果を分析し、児童の実態と課題を明確にした上で、課題解決の手立てを工夫したことにより、全体的な学力の向上につながった。 ●体力的課題の克服に向けた取組を充実するための体育授業の指導法の工夫・改善を実施していきたい。
	③一人一人を大切にし、信頼関係に立った生徒指導の充実	・共通理解・共通行動で組織対応する生徒指導 ・一人一人によりそい信頼関係に立った生徒指導	B	○日々、学年内で情報共有し、月1回の生徒指導委員会、教育相談部会において、組織で対応することで、学校全体で生徒指導課題への対応を協議し、役割の分担や協力して指導にあたるよう組織的に行動した。 ●児童一人ひとりをかけがえのない存在として大切にすることを根底において、児童理解に努め、問題行動等の未然防止、早期発見、適切かつ迅速な解決に組織的・積極的に取り組んでいく。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・「第三次草加市教育振興計画(笑顔かがやく草加教育プラン)を踏まえ、学校教育目標の実現を目指し、全教職員が「凡事徹底」「率先垂範」「協働・協力」を合言葉に教育活動の充実に努め、児童が全体的に落ち着いて、明るく元気に学校生活を送ることができている。
- ・主体的・対話的で深い学びの視点から「草加の学びを支える授業の5か条」や自校の学力向上プラン、栄小スタンダードに基づく授業改善を日常的に行い、学校全体としての学力向上や教職員の指導力の向上につながっている。個別最適な学びや協働的な学びの視点でも日々の実践を行っている。
- ・幼保小中を一貫とした教育における校内研究において、児童の自己肯定感を高めたり自己有用感を育んだりする教育を実践することで、児童の個性を大切にし、一人ひとりを大切にした教育の実践をすることができている。特にペア学習、対話的な学び、振り返りなどの学習が自己肯定感を高めることにつながっている。また、栄中学校区の子どもの実態や課題を把握し、研究主題の共通認識や重点目標による実践を行い、中学校区の目指す子ども像の実現に向けた幼保小中を一貫した教育の具体的な取組を進めることができている。
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行後も様々な感染症の対策に努め、児童の安心・安全確保のため、学校全体を学習面・安全面など様々な視点から適切に管理することに努めている。状況の変化に応じて、随時取組内容の工夫改善を行い、教育環境の整備を進めている。
- ・学校運営協議会を通して、教育活動の実践や児童の安心・安全などについて、協議することにより、学校運営における課題解決に向けた開かれた学校づくりの在り方や保護者・地域の願いや思いに寄り添いつつ、手立てを工夫していくことにつながっている。また、平成塾や学校開放とも連携することで、地域に開かれた学校づくりを実現することができている。

6 次年度の改善策

- ・学校教育目標「ねばり強い子」「体をきたえる子」がよりよく実現されるよう、体育授業や学校行事をはじめとして、児童が目標をもち、それに向かって努力し、やり遂げる機会を計画的・意図的に工夫し、教育活動の一層の充実を図る。
- ・教職員一人ひとりの強みを生かし、それぞれの力が最大限に発揮されるようバランスのとれた校内組織を編成し、効率よく機能させることにより、学校のチーム力のさらなる向上に努める。働き方改革の視点からも教職員が働きやすい学校事務、環境づくりを工夫・改善する。
- ・学校運営協議会を活用し、家庭・地域の声に耳を傾け、学校に寄せられる要望等に誠実に対応することで、学校教育への家庭・地域の理解を深め、協力を得られるようにしていく。教職員事故0を徹底し、家庭、地域から信頼される学校となるよう、日々の教育活動を着実に誠実に進めていくようにする。
- ・社会に開かれた学校づくりを進めるために、学校の教育活動を公開する機会を増やしていくと共に、学校・学級だよりや学校HP・学校家庭連絡メール「すぐる」等による学校からの積極的な発信を行っていく。
- ・幼保小中を一貫した教育のさらなる推進を図るため、15年間を見通した教育課程の編成を見直し、中学校区の各校・各園が共有することにより、教職員間の共通理解を深めながら、栄中学校区の目指す児童・生徒像に近づけられるようにする。
- ・生徒指導・教育相談について、意図的・積極的な取組をさらに強化していく。関連機関やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携を密にして、組織的に対応していくことにより、問題行動やいじめの未然防止、早期発見、早期解決や不登校の解消、特別に支援を要する児童への対応につなげていく。